

Compass English Communication I

生徒にも先生にも user-friendly な教科書

岡田 圭子



新学習指導要領では、高等学校の英語科目が再編成されました。4技能の総合的な指導をめざす「コミュニケーション英語」科目群と、発進力の充実した指導を目指す「英語表現＋英語会話」科目群の2つに大別されます。「コミュニケーション英語I」では、「英語I」以上に生徒を動かし、多くの活動をさせることにより、生徒中心の授業を展開することが期待されています。

私たち執筆陣はこのことを念頭に置いて、話し合いを重ね、アイディアを出し合い、執筆を続けてきました。こうして出来上がったのが、新教科書 *Compass* です。英語学習という大海原を進む生徒たちの手元でしっかりした羅針盤の働きができるよう、*Compass* と名付けました。

1. *Compass* の編集方針

まず、*Compass* の編集上のポイントをご紹介します。

(1) 使いやすい見開きレイアウト

見開き2ページ（右頁上図参照）がひとまとまりとなっています。左ページに本文、右ページに解説とタスクを置きました。先生にも生徒にも見やすくわかりやすい、進度を把握しやすい構成となっています。

(2) 基礎固めを着実にする構成

レッスン順に進んでいくだけで、基礎を押さえ、さらに新指導要領の要点を生かした授業を展開していただくことが可能です。

(3) 多彩なトピックの10課と補助リーディング

2学期制・3学期制どちらでもお使いいただけ

る、無理のない10課構成です。第1課では、アンジェラ・アキ、野口健、毛利衛の各氏に高校1年生へのメッセージを寄せていただきました。これをはじめとして自然、環境、歴史、科学、日本文化など多彩なトピックが展開。さらに、生徒の興味を引く魅力的な写真・挿画が満載です。

また、Supplementary Readingとして、平和をモチーフとした心温まる読み物と、星新一氏のユーモア小説を英訳した読み物を配置しました。本文より平易ではありますが、読み応えのあるものとして、生徒の心を捉えることでしょう。それぞれに1ページのComprehensionを添え、授業内で扱わない場合でも、生徒が自律学習できるように工夫しました。

2. *Compass* の構成

次に、新指導要領を踏まえた *Compass* の特徴をご紹介します。

(1) 4技能の総合的育成

「聞いたり読んだりして知識をつけ、それについて自分なりの考えを持ち、話したり書いたりすることで自分を発信する。」このことが、自然にできるように各課の構成を工夫しました。

各レッスンの扉ページをご覧ください。生徒の想像をかきたてるような、美しい写真や挿画とともに、日本語の紹介文がついています。ここでぜひ生徒には、課のトピックを自分の話題として考えてもらいたいと思います。

ページを開くと、1課は4つのパートに分かれ、各パートは見開きの2ページで完結していま

す。左ページに本文、右ページには解説とタスクがあります。左ページは、ネイティブスピーカーの執筆者が練りに練ったわかりやすく親しみやすい本文が、美しいカラー写真やイラストとともにすっきりと収められています。学習指導要領などの音読重視の傾向を踏まえて、Soundでは各ページから1個ずつ、読み方を注意すべき語や表現を取り出し、一言で解説しました。

右ページは、以下の4つに分かれています。

○Answer it!

ここは、本文の内容把握です。英問英答ですが、ペアやグループで話し合ったりして、生徒が声を出すきっかけにすることもできます。

○Focus on it!

各パートに1つずつ文法のフォーカスを置いています。Book 1では後半まで中学校の項目の復習にとどめました。

○Check it!

Focus on it! で取り上げた表現を英文完成、内容把握、並べ替えなどの方法で確認しています。

○Use it!

本文に出てくる重要な表現を使って簡単な英文で話してみようというセクションです。生徒がスムーズに発言できるよう、Hint Box でヒントが与えられており、平易なタスクとなっています。

さて、4つのパートを学習し終わると、Review, Practice, そしてEnjoy Communication という3つの課題が用意されています。Reviewでは、その課の内容を確認できるよう、サマリーや手紙文などの形式を用いたタスクが用意されています。また、本文の内容を自分に引き付けて考えることができるよう配慮されています。

24

Part 4 人間の走る速さ、泳ぐ速さを動物と比べてみましょう。

Let's compare humans to animals. The fastest humans run around 38 km/h (kilometers per hour), but the cheetah can run at 113 km/h. The fastest humans swim around 9 km/h. However, the fastest fish in the ocean—the sailfish—swims at 109 km/h.

Some people can hold their breath for four minutes and dive 100 meters under water. Yet the Cuvier's beaked whale can dive to 1,900 meters and hold its breath for more than an hour. Humans are often not nature's number one.

compare (kəmˈpəreɪ)
per (pə)
cheetah (ˈtʃiːtə)
sailfish (ˈseɪlɪʃ)
breath (breɪð)
dive (daɪv)
yet (jet)
Cuvier's beaked whale (ˈkʊviəz beɪkt əʊəl)

ヒトより速い動物の走る速さ (速さ比較)

○ compare ~ to ~: ~と比べる ○ sailfish: サイロウサギ
○ hold one's breath: 息を止める ○ Cuvier's beaked whale: アネゴクワジラ
○ kilometer: キロメートル ○ meter: メートル (長さの単位に注意)

Lesson 2

Answer it!

a. How fast can the cheetah run?
b. How fast does the fastest fish swim?
c. How long can the Cuvier's beaked whale hold its breath?

Focus on it!

The cheetah can run at 113 km/h.

動詞 + 動詞の形
「～することができる」

Check it!

次の文を() の語を使って書き換え。意味の違いを考えましょう。

a. This dictionary is Mandy's. (may)
b. Do you walk to school? (can)

Use it!

下欄の表を使い、旅行する際の交通手段について話し合おう。

a. How can I get to Kyoto from here?
b. You should go by train. It's the easiest way.

Hint Box

Sapporo Osaka
plane bus

(Lesson 2)

Practiceではイラストをヒントとしながら英文を完成させ、重要な表現の定着を図ります。最後のEnjoy Communicationは、新指導要領の要である、「文法指導をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行う」ことの仕上げとなっており、Compassの大きな特徴と言えます。ここでは、本文の内容に基づき、その応用的な言語活動が提示されており、話すことや書くことを通じて「発信力」を育てることができます。生徒もその課で学んだことが自分について話したり書いたりすることにつながっていくことに、大きな喜びを感じることでしょう。

(2) 関心や意欲を高める内容

「4技能の総合的な育成を効果的に行うために、そうした活動にふさわしい題材を選ぶ。たとえば、社会や理科といった他教科でも学ぶ内容について英語で学ぶ、あるいは自国の文化や歴史について学ぶ、科学技術や自然について学ぶ、コミュニケーションへの関心を高める内容について学ぶ。」このことを念頭に置き、非常に多くの題材候補の中から、高校1年生にぜひ知ってもらいたい、興味深いものを精選しました。2、3のレッスンをご紹介します。

Lesson 3 の “Kimonos are Cool!” では、オーストラリアからの留学生との会話を通して、日本の伝統的衣装である着物とその流行についてわかりやすく学びます。デニム生地ですでにジーンズ感覚で着られる着物や、アフリカのデザイナーがアフリカの伝統的な布地を用いて作った着物についての話題は、着物という日本独自の文化についての関心や理解を深め、自分の国のことについて話してみようという態度を養うでしょう。

また、Lesson 9 の “The Story of Chocolate” では、チョコレートという身近な食物を取り上げ、その歴史、製法、消費などについて学びます。この課の Enjoy Communication は自分の好きなものについて、なぜそれが好きなのかを書いてみよう、というものです。このように、*Compass* では、何か新しいことを読んだり聞いたりしたあとで、それを自分のことに引き付けて考えることができるような工夫が凝らされています。

最後の Lesson 10 は “The Coral Crisis” というタイトルで、日本人生徒がサンゴ礁の危機について調べ、それをクラスでプレゼンテーションする、という設定です。英語を通して得た知識を自分なりに捉えなおし、意見を持ち、これをやさしい英語で発表することができたら、コミュニケーション英語 I は成功だと言えます。

このように、*Compass* では、読んで楽しい、聞いておもしろいトピックについて、内容、文法、表現、音声などを体系的に学び、さらに Review や Practice で確認・応用、最後に Enjoy Communication で発信する、というきわめてシンプルで、わかりやすいサイクルを通じて生徒ひとりひとりが言語経験を蓄積できるよう、工夫が凝らされています。

さらに、こんなところにもご注目ください。

(1) 巻末には、Idiom List と Word List をつけました。コミュニケーションを進めるための語彙力を充実させることは新指導要領の重要点でもあります。語彙小テストの範囲設定など、さまざま

に活用してください。

(2) 教室英語に慣れるために、先生方と生徒の両方がこんなことが言えたら、という、Classroom English を裏表紙に載せました。このようなリストはありそうでないもの。便利に使っていただけたと思います。ALT が訪問する時間だけでなく、普段の授業でもご活用ください。

3. 生徒・先生に user-friendly な教科書

最後に、執筆陣からのメッセージです。中学校の3年間で英語が好きになって高校に入ってくる生徒もいれば、苦手意識を持ったままの生徒もいることでしょう。教室には英語について様々な気持ちを持った生徒たちがいます。私たちは、そういった現実をふまえて、苦手意識を持った生徒には少しずつ基礎の確認をしながら楽しく進んでもらえるように、英語が好きな生徒にはさらに新しい発見をしてもらえるように、課の構成やトピックを考えました。1 課に 1 回でも「へえ！」と思ってもらえることがあれば、少しずつ英語学習への前向きな姿勢が養われるのではないかと思います。

さらに、*Compass* は先生にとって使いやすい教科書となっていると自負しています。トピックの配置、タスクの内容など、現実の教室運営をしっかり想定した上で決めていきました。執筆陣は、6 名中 5 名が日本の高等学校の現職教員または教員経験者です。現場をよく理解した執筆者が、現場で最大の教育効果を上げていただけるよう、工夫を重ねました。また、力のあるネイティブスピーカー執筆者のおかげで、知的で刺激的内容を平易で読みやすい英語でお届けすることができました。生徒にとっても、先生にとっても user-friendly な教科書、それが *Compass* です。

* * *

以上、*Compass* 編集意図やお勧めのポイントなどを説明しました。ぜひ、教室で *Compass* を活用してください。（おかだ けいこ・獨協大学教授）